

平成18年度 市役所人事異動



本年度は、機構改革により課の統廃合をし、3課を廃止しました。また財政健全化の一環として、昨年と今年度で44人の退職者に対し、職員の採用を消防・一般職最小限のそれぞれ4人の計8人とししました。また、保健課の充実による地域包括支援センターの新設に任期付職員を3名採用しました。消防職員を除けば110名（昨年112名）と昨年と同様小規模な異動にとどまりました。また、消防職についても、本年度の異動数は昨年同様小規模としました。

異動総数 120名

一般	62名	調理師	13名
技師等	13名	消防士	10名
保育士	21名	保健師	1名

- (1)課長補佐昇格4名（保育所長含む）中2名及び係長昇格5名中3名に女性職員を登用し、男女共同参画社会実現に向けての取り組みを推進しました。
- (2)じんけんセンターを廃止し、人権啓発係を教育委員会学校教育課に、南部・中央福祉館を総務課へ移管しました。
- (3)土地対策課を廃止し、建設課へ地籍調査係を新設しました。
- (4)水道局と下水道課を統合して上下水道局を新設し、お客さま係・くらしの水係・水道施設係・下水道施設係としました。
- (5)生活環境課を環境課に改めました。

（掲載は係長相当職以上）

【課長級】

総務課長＝和田義許（保健福祉センター所長）、市民課長＝石川明美（じんけんセンター所長、保健福祉センター所長＝溝渕勉（議会事務局長）、環境課長＝井口善喜（生活環境課長補佐兼処理場整備係長）、農林課長＝西川潔（税務課長補佐兼資産税係長）、上下水道局長＝高木正平（下水道課長兼水道局長）、議会事務局長＝中山泰夫（市民課長）、監査委員事務局長＝谷田一男（土地対策課長）、学校教育課長＝竹内直人（県教委）

【課長補佐級】

税務課長補佐兼資産税係長＝浜田清貴 保健福祉センター次長兼保健予防係長、保健課長補佐兼高齢者介護保険係長＝山内幸子 保健課高齢者介護保険係長、保健福祉センター次長兼健康ライフ推進係長＝島崎俊二 保健福祉センター健康ライフ推進係長、環境課長補佐兼処理場整備係長＝西野英二 保健課長補佐兼国保係長、建設課対策監兼地籍調査係長＝神田彰（土地対策課長補佐兼土地対策係長）、建設課長補佐兼土木第1係長＝吉川宏幸（建設課土木第1係長）、上下水道局次長兼水道施設係長＝別役規夫（水道局次長兼施設係長）、上下水道局対策監兼お客様係長＝佐竹茂（下水道課長補佐兼業務係長）、学校教育課対策監＝正木敬造（県教委）

【係長級】

総務課中央福祉館長＝岩崎明雄 市民課戸籍係長、総務課南部福祉館長＝岡田泰光（じんけんセンター南部福祉館長）総務課総務係長＝長野洋子（福祉事務所主幹）、税務課収納係長＝溝渕慶喜（税務課収納管理係長）、税務課税務管理係長＝沢田一彦（水道局営業係長）、市民課国保係長＝細川千秋（財政課主幹）、保健課地域包括支援センター所長＝今久保康夫 商工水産課企業誘致係長、保健課給付係長＝岩原富美（総務課主幹）、保健福祉センター保健予防係長＝楠本雅昭（保健福祉センター主幹）、環境課環境係長＝村田功（生活環境課環境係長）、商工水産課企業誘致係長＝中沢孝夫（総務課総務係長、福祉事務所保護第1係長＝西山明彦（農林課主幹）、学校教育課総務係長＝福井富美子（保健課給付係長）、学校教育課人権啓発係長＝山本晃義（じんけんセンター人権啓発係長）、上下水道局くらしの水係長＝前田忠志（水道局給水係長）、上下水道局下水道施設係長＝高田博通（下水道課工務係長）、学校教育課学校教育指導係長＝宮崎司朗（県教委）

【保育所】

久礼田保育所長＝久武玲子（稲生保育所長）、国府保育所長＝西岡さゆり（あけぼの保育所長）、あけぼの保育所長＝高橋早苗（国府保育所長）、大湊保育所長＝野村年子（明見保育所主幹）

【消 防】

消防本部消防長 = 西岡次男（消防本部消防長兼総務課長兼消防署長）、消防本部総務課長 = 竹内正剛（消防署副署長兼消防本部総務課総務係長）、消防署長 = 岡林則雄（消防本部総務課長補佐兼消防団係長）、消防本部警防課長 = 細川澄雄（消防本部予防課予防係長）、消防本部予防課長補佐兼予防係長 = 武市豊（消防署副署長）、消防署副署長兼救急係長 = 洲賀崎勝男（消防署第2救急隊長）、消防本部総務課総務係長兼消防団係長 = 岡田直人（消防署第1消防係長兼第1消防隊長）、消防署第1消防隊係長兼第1消防隊長 = 久保泰祐（消防署第2救助隊長）

【新規採用者】 4月1日付け

岡田卓大（保健課）、関田晃弘（福祉事務所）、溝渕博生（福祉事務所）、朝日一成（学校教育課）、國吉俊秀（消防本部）、片岡達哉（消防本部）、辻義之（消防本部）、溝渕祥晃（消防本部）、橋村浩子（保健課）、野村千賀（保健課）、植村美穂（保健課）

【退職者】 3月31日付け

前田賢夫（消防署）、中島智津子（市民課）、浜田展代（市民課）、竹村修（農林課）、田村耕三（消防署）、島内暁（学校教育課）、中沢弘子（大湊保育所）、小松正幸（消防署）、山中武志（水道局）、小松まき子（東部児童センター）、浜田悦子（都市計画課）、竹村満子（生活環境課）、山本喜久男（商工水産課）、田中俊光（下水道課）、矢野恵美（商工水産課）、森本幸子（久礼田保育所）、杉本健（福祉事務所）、利岡正志（監査委員事務局）、浜口ちさこ（あけぼの保育所）、大谷孝子（明見保育所）

人権と共生の時代②

男女ともに高学歴化が進行していると言われていますが、男女の専攻には大きな違いがあります。社会科学専攻が最も多いのは共通していますが、女子は人文科学・教育・家政・芸術専攻者が多く、男子は工学・理学が多いというものです。

理工系の学校に通っている女子学生と話すことができました。彼女は「この学校に入ってずいぶん強くなりました」と言います。どういう意味かと思いい理由を聞くと、理工系の学校に受かったという、遠い親戚の人に、「女の子なのだから、理工系ではなく違う進路にしたら」とお説教された、とのことでした。けれども彼女は自分の意思を貫き理工系の学校に入学しました。学校で勉強を続ける間にはいろんなことで苦労もあつたようですが、周りの反対を押し切り自分で選んだ進路です。泣き言をいうわけにはいかなかったのだでしょう。「学校を続ける中で精神的に鍛えられました」と言っていました。彼女は無事卒業し、専門を生かして元気に働いているとのことでした。

一方、男子の場合には理工系への進学は勧められこそすれ、反対されることはほとんどないそうです。ところが、なんとなく理工系へ進学したものの実は違う方面に興味があり、進路変更す

「子どもの進路」

人権教育シリーズ

る例もあるとのことでした。

男の子がひよんなきつけからバレエの教室に通うことになり、次第にバレエに魅せられ本格的にレッスンを臨むようになり、ついにバレエの専門学校の試験を受けるという外国映画もありました。男の子の進路をめぐって父親の精神的葛藤が描かれていました。社会の現実を見れば、ドライバーには男性が多く、美容師には女性が多いという状況があります。子どもの幸福を思えば苦勞のない将来を、と周りは考えるかもしれません。けれど、「好きこそものの上手なれ」のたとえもあります。専門家庭教育には厳しい修業や勉強がつきものですが、専門分野に興味があれば技術や知識は容易に身につくものではないでしょう。保母が保育士、看護婦が看護師に名称変更されました。いろいろな職場に両性が存在する、ということは男女共同参画社会のありかたでしょう。子どもたちが自分の特性を考慮して選んだ進路を周りが喜んで支援できるように社会にしていくこと、それは今、私たち大人に課せられている課題のような気がしてなりません。

お問い合わせは、
人権広報委員会
☎ 880・6569 まで